

■大田洋子 小説家。戦前すでに著名で、原爆被災、原爆症の恐怖と闘いながら、密度高い記録文学作品を遺した。

おおたようこ

日比谷公園・1903＝ 広島市西地方町に生れる。本名初子。福田滝次郎・トミの長女。

日露戦争終・1905＝ 2歳：

韓国併合・1910＝ 7歳：大田家に入籍。

明治天皇没・1912＝ 9歳：母の再婚で稲井家に入る。

原敬首相暗殺1921＝18歳：同市進徳実科高等女学校卒業，

研究科修了後，小学校につとめ，半年で辞職。

治安維持法・1925＝22歳：新聞記者藤田一士と同棲。相手に妻子があることを知り精神的に深傷を負う。まもなく単身上京，文芸春秋社に身を寄せたが，

円本時代始・1926＝23歳：1年たらずで妻を離別した藤田と正式に結婚，1児の母となる。

共産党事件・1928＝25歳：しかし結婚生活2年で出奔，尾道，大阪などで女給やダンサーをしながら作家への道を模索する。

世界恐慌・1929＝26歳：_【女人芸術】に短編小説「聖母のある黄昏」が採用され，長谷川時雨に認められ上京，以後，同誌に作品を書き続けるが，

海軍軍縮条約1930＝27歳：

満州事変・1931＝28歳：

五一五事件・1932＝29歳：_同誌が廃刊になって抛り所を失う。

二二六事件・1936＝33歳：黒瀬忠夫と結婚するが，

日中戦争始・1937＝34歳：破綻。

第二次大戦始1939＝36歳：「流離の岸」。*「海女」が【中央公論】懸賞小説に1等入選，

大政翼賛会・1940＝37歳：*【朝日新聞】の1万円懸賞小説に「桜の国」が1等入選，一躍著名作家となる。

日米開戦・1941＝38歳：「淡粧」「友情」，

・・・・・・1942＝39歳：「野の子花の子」「星はみどりに」，

創価学会検挙1943＝40歳：「暁は美しく」「たたかひの娘」，

敗戦・・・・・・1945＝42歳：*郷里広島で被爆，以後，原爆症の恐怖にさらされながら，それまでの作風を一変し，

新憲法施行・1947＝44歳：「真晝の情熱」。3度目の結婚をして，

極東裁判決・1948＝45歳：1年余りで離婚。「情炎」。_被爆体験を「屍の街」，

独立回復・1951＝48歳：_「人間濫獲」(女流文学者賞受賞)などに結実させ，密度の高い記録文学を確立。

自衛隊発足・1954＝51歳：「半人間」，

55年体制始・1955＝52歳：「夕風の街と人と 一九五三年の実態」，

なべ底不況・1957＝54歳：

安保闘争・1960＝57歳：

タイタイ病始・1961＝58歳：「八十歳」，

*原爆症への恐怖と闘いつつ生き，

TV宇宙中継始1963＝60歳：【新婦人しんぶん】に「なぜその女は流転するか」連載中，福島県猪苗代の温泉で，心臓麻痺起こし_没した。